

一般社団法人 三重県作業療法士会 広報誌

OTみえ

NEWS

No.130

2019.2



リハビリジャー、様々なイベントに登場



contents

【広報部からのお知らせ】

掲載内容について

会員の皆様へ：広報誌への掲載希望、要望についてご意見をお聞かせください。

広報部 e-mail: kouhoumie@gmail.com

【巻頭言】

「原点回帰～日々提供している作業療法を再考する～」

(第30回三重県作業療法学会 学会長 上西 徹)

【知人 de リンク】

医療法人紀南会 熊野病院 伊藤大晃

医療法人橘会 多度あやめ病院 片岡浩士

【施設紹介】

阿児第2通所介護センター 真珠荘 南 基典

【特集：認知症作業療法推進委員会の活動報告】

三重県認知症作業療法推進委員

【参加報告】

[学会参加報告]

第52回日本作業療法学会に参加して(藤田医科大学七栗記念病院 伊藤和樹)

第18回東海北陸作業療法学会に参加して(三重県立総合医療センター 富中真悟)

【イベント参加報告】

平成30年度みえ福祉用具アイデアコンクール審査会に参加して(副会長 佐藤明俊)

救急・健康フェア2018に参加して(鈴鹿中央総合病院 中村優里)

第11回 赤堀ふれあいまつりに参加して(鈴鹿厚生病院 村田 光)

【協会・士会主催会議、研修の参加報告】

運転と作業療法委員会の活動報告(運転と作業療法委員会 宮坂裕之)

平成30年度 高校生作業療法体験・見学会を実施して(作業療法啓発部 島崎博也)

東海北陸作業療法リーダー養成研修(亀山回生病院 岡田拓朗)

学術部主催精神科研修会(熊野病院 濱中 茜)

三重県作業療法士会スポーツレクリエーション大会(鈴鹿厚生病院 村田 光)

第3回三重県災害リハビリテーション研修会(災害対策委員長 奥村 務)

南勢ブロック研修会(伊勢慶友病院 村田 伶)

【県士会からのお知らせ】

選挙管理委員会からのお知らせ(選挙管理委員会 委員長 伊藤篤史)

発達支援作業療法推進委員会からのお知らせ(発達支援作業療法推進委員会 熊谷ちほり)

【勉強会 / 研修会のお知らせの掲載について】

勉強会、研修会の詳しい内容は、三重県作業療法士会ホームページをご覧ください。 <http://mieot.com/info-cat/study/>

【賛助会員のご紹介】

日本モッキ 〒516-0008 三重県伊勢市船江3丁目17-19 Tel.0596-65-6039

杉山木工 〒990-0401 山形県東村山郡中山町大字長崎字中原 996-6 Tel.023-662-5295

【求人情報】

求人情報の詳しい内容は、三重県作業療法士会ホームページをご覧ください。 <http://mieot.com/info-cat/job/>

【編集後記】

「原点回帰～日々提供している作業療法を再考する～」

Topics



第30回三重県作業療法学会 学会長
上西 徹

このたび 2019年3月2日(土)に第30回三重県作業療法学会を開催することになりました。今回の学会テーマは、「原点回帰～日々提供している作業療法を再考する～」です。ベテラン作業療法士も新人作業療法士も、自分自身が日々提供している作業療法について、もう一度原点にもどり、作業療法の意味やすばらしさを共有してみることで、新しいことに繋げていけたらよいと思い、このテーマを選択いたしました。

最近では、一般の方も、新聞、メディア等で多くの知識を得ることができ、医療や福祉に対する目も厳しくなってきました。そんな中、私たち作業療法士は日々の業務に追われて、患者様、利用者様にルーチン化された作業療法を、漫然と提供していることもあります。そこで、もう一度、自分が行っている作業療法をふり返り、エビデンスに基づいた作業療法を必要に応じて各個人に提供し、同時に、自分たち作業療法士はこのようなことをする職種といったことを、多職種や一般の方にもお伝えしていくことが大切です。

本学会では、特別講演講師として、日本作業療法士協会副会長の山本伸一先生をお招きし、「再考！CVAに対する上肢機能アプローチ」というテーマでご講演して頂きます。山本先生は、各方面でご活躍されており、今回の特別講演をご依頼させて頂くにあたり、お忙しい中、予定を変更して来て頂くことになりました。エビデンスに基づいた上肢機能アプローチについて、豊富な経験をもとに、自分たちが行ってきたアプローチを再考していけるようなお話を聞ける良い機会になると思います。

また、本学会では、一般公開講座も開催させて頂きます。テーマは、「いつまでも運転が続けられるように日々の暮らしでできること」という内容で行います。講師として、津警察署交通総務課の担当者様、三重県作業療法士会認知症作業療法推進委員の松永麻奈氏にお願いし、ご講演頂きます。この企画につきましては、学会実行委員、三重県作業療法士会事業部員にて考えさせて頂きました。昨今、高齢者の自動車事故がニュースで報道されていますが、今回、警察署のご担当者様からは、三重県内における高齢者の自動車運転に関する現状をお伝えして頂きます。また、作業療法士の立場からは、少しでも長く運転が続けられるように、日々の暮らしの中でできることをお伝えして頂くような内容で企画しております。

三重県作業療法学会も今回で30回目ということで、節目にふさわしい内容を実行委員で検討し考えました。少しでも多くの方々に参加して頂けるよう実行委員一同全力で準備しております。当日は、三重県作業療法士会の会員証をご持参の上、ご参加ください。皆様と会場でお会いできることを楽しみにしております。

知人 de LINK

医療法人紀南会 熊野病院 伊藤大晃

みなさんこんにちは！私は介護老人保健施設、嘉洋苑の濱口裕磨先生から紹介して頂いた医療法人紀南会、熊野病院の伊藤大晃です。濱口君とは学生時代の同級生であり、また出身地も同じで毎日一緒に通学したり、勉強やレポートと一緒に頑張った仲です。もちろん勉強以外のお酒を飲んだり、遊んだりする事の方が多かったですが・・・(笑)今でもたまにですが、連絡を取って遊んだりお酒を飲みに行ったりしています。

さて私は、三重県最南端の熊野市にある精神科病院で勤務して、3年の月日が経ちました。現在、療養病棟の担当と施設内に併設している老健で毎日楽しく作業療法をしています。療養病棟に入院している患者様に作業療法に参加して頂く為の声掛けが大切で、私は元気な声掛けと明るい笑顔を手軽にして患者様と関わりも持って行きたいと思っています。特に笑う事は人にとって一番大事だと私は思っており、患者様に心から笑って頂けるように私が担当して行う体操のプログラムでは、笑顔を作り大きな声で笑うトレーニングを行っています。笑うトレーニングを行うと内向的な人でも、にっこり笑う事がありその笑顔を見る事が私はとても好きです。

私のプライベートですが、4月に子どもが生まれ、慣れない育児に頑張っています。特にオムツ交換には苦戦しておりますが、子どもの成長と共に父親として成長して行きたいと思っています。子どもが生まれてからは趣味で料理をしています。最近では中華鍋で本格炒飯を作る事に魂を込めています。最近で一番美味しかった炒飯を写真に載せさせていただきます。

今回は僕の学生時代の同級生で、学生時代に勉強をよく教えてもらった医療法人全心会伊勢慶友病院に勤める作業療法士 松阪徳美さんをお願いしたいと思います。よろしくお願いします。



医療法人橘会 多度あやめ病院 片岡浩士

こんにちは。鈴鹿回生病院の萩野創先生よりご紹介頂きました、医療法人橘会 多度あやめ病院所属の片岡浩士です。萩野先生とは、昨年リハレンジャーをさせて頂いた際にお会いし、仲良くして頂いております。初めてリハレンジャーという場に参加し緊張していた私や他のメンバーの方に優しく、明るく接して頂きました。職場においても、その明るく優しいお人柄で患者様やスタッフの方々と接し、ご活躍されていると思います。

現在、私は精神科の病院に勤めており、1年と8ヶ月程が経過いたしました。まだまだ未熟だと感じる部分は多くありますが、少しずつでも成長はしてきたのかなと思っています。私が勤める病院は自然豊かな場所にあり、穏やかな環境にて患者様やスタッフの方々と過ごしております。

その同じ職場の先輩に去年、スキーに誘って頂き、行ってみました。初スキーということもあり、ワクワクと不安をむねに、午前4時に多度を出発しました。スキー場について、まず板を履くのに一苦労をし、履き終えたら、恐怖のゴンドラへと何とか乗って山頂へと上りました。山頂からの景色に感動し、「この場にずっと居たい。」と思ながらも滑り始め、案の定転倒しまくりました。初日は50回程転倒したと思います。板ではなく臀部で滑っているようなものでした。初スキーの日は恐怖を覚えたまま終えましたが、2回目はマシになり、転倒回数が減って楽しむことができました。今年も行こうと思っており、趣味の一つになりそうです。他にもモータースポーツやソフトボール、映画鑑賞等、いくつかの趣味を持っているので財布の中が寂しくなりそうです。

今回は、同じ学校に通っていた、頼り甲斐があり優しい村田光先生を紹介させていただきます。鈴鹿厚生病院にて勤務されております。よろしくお願いします。



施設 紹介

阿児第2通所介護センター 真珠荘



南 基典

阿児第2通所介護センター真珠荘は、社会福祉法人洗心福祉会（本部は津市）に所属するデイサービスです。場所は志摩市阿児町にあります。伊勢志摩サミットの議場となった「志摩観光ホテル」の近くと言えばお分かりになるでしょうか？または、最近よく旅番組で紹介される「横山展望台（天空カフェテラス）」が近くに 있습니다。施設の建物は、以前保養所だった事もあり、外見も中見も介護施設らしくなく、ご利用者様から「昭和の雰囲気落ち着いていて、旅行に来たみたい」との評判です。

事業内容は、デイサービスとショートステイが併設されており、当デイサービスは30人定員（通常規模）でサービスの提供を行っております。志摩市は大小色々なデイサービスがあります。しかし他の地域に比べリハビリを行っている施設が少なく、志摩地区でリハビリといえば？と考えると自ずと施設が決まってしまうような土地柄です。阿児第2通所介護センター真珠荘もデイサービスを開始してから約10年以上経過しております。数年前に小職が異動、配置されてからは、セラピスト一人の職場で頑張っています。

当デイサービスで行っているリハビリは身体機能の向上を目指すことを中心として行われる「個別機能訓練加算（Ⅰ）」です。それに対し「個別機能訓練加算（Ⅱ）」は、体や精神の働きである「心身機能」、ADL・家事等屋外歩行といった生活行為全般である「活動」と家庭や社会生活における役割を果たすことである「参加」といった内

容です。しかし厚生労働省は、「個別機能訓練加算（Ⅰ）と個別機能訓練加算（Ⅱ）の関係性」について、「個別機能訓練加算（Ⅰ）のみを算定する場合であっても、並行して生活機能の向上を目的とした訓練を実施することを妨げるものではない」とある事から、小職の考えとして当デイサービスでは、個別機能訓練加算（Ⅱ）に近い訓練を行っております。これは以前小職が、訪問看護のOTとして従事してきた経験から学び、それを

デイサービスのご利用者様の訓練内容にも活かせたらとの思いでアプローチしています。また小職はリーダーとしての役割も担っている為、セラピスト以外の業務もあり忙しい毎日を送っています。その中でご利用者様とリハビリ以外でも積極的に関わり、ご利用者様の体調やちょっとした気持ちの変化を見逃さず、また「しているADL」を観察する事を心がけています。デイサービスは名前のおり日帰りです。ご利用者様は自宅に帰ればいつもの生活が待っています。故に当デイサービスで生活機能を向上させるきっかけを得て頂ければとの思いでサービスを提供しています。

異動前の当デイサービスの内容は「レスパイト」目的でしたが、現在国が求めているデイサービスは生活機能の維持向上、認知症予防等を行う施設です。これからはご利用者様それぞれにとって何が良いのかを探求し、さらに良いサービスを提供できるよう努力していきたいと思ひます。



特集：認知症作業療法推進委員会の活動報告

三重県認知症作業療法推進委員

三重県認知症OTのスキルアップ研修

三重県医療保健部長寿介護課 地域包括ケア推進班
河合晶子

三重県OTの皆さま、こんにちは！三重県認知症OT推進委員の河合です。

2018年6月24日に開催したアップデート研修に続き、11月10日、「認知症とともに地域で暮らす」をテーマとした、三重県認知症OTのスキルアップ研修が開催されました。群馬医療福祉大学教授の山口智晴先生を講師にお迎えし、初期集中支援の実践を切り口にした、認知症の人と共に歩むためのエッセンスがたくさん織り込まれたお話をご講義いただきました。参加者57名中20名が一般・多職種・行政職の方で、ご本人・ご家族・行政・多職種が、分野を超えて連携し取り組むことへの関心の高まりが伺われました。

講義は、具体的な事例を通して、認知症の人の症候理解の視点から生活の困りごとの支援のポイントまで分かりやすくお話し頂き、アンケートでも大変好評を頂きました。また、ごちゃまぜメンバーで行ったグループワークでは、病院・施設に勤務するOT仲間達に、地域の課題・資源・視点にふれてもらう良い機会となったのではないかと思います。同時に、

地域に向けてOTの視点や取組を発信する啓発の機会にもなったようで、研修後、市町や地域包括支援センターの方から嬉しい問い合わせを頂いています。

三重県認知症OT推進委員会は、今年度の目標を「三重県認知症OTの地域進出推進！」と掲げ、活動を行ってきました。山口先生のお力を借り、県士会や他部のご協力を得て、推進委員と運営委員で作ったこの流れを、引き続き今後の取組につなげていきたいと考えています。会員の皆様のご意見、参加、協働、いつでも大歓迎です！これからどうぞよろしく願いいたします。



平成30年度認知症作業療法推進委員会議

松阪厚生病院 林 展行

平成30年度認知症作業療法推進委員会議が10月27日、28日に東京で行われました。各都道府県から2名程の認知症作業療法推進委員が参加し、認知症推進委員会の今後や取り組みについて話し合いが行われました。



1日目は日本作業療法士協会理事の小川敬之先生から協会としての認知症対策について新オレンジプランやデイサービスでの就労支援など具体例を通して報告がなされました。また、講師の先生方から認知症の人の生活支援推進委員会の取り組み、認知症の人に対する作業療法の手引きについての報告がありました。その後、最新版のアップデート研修の講義が行われました。

2日目は前半に平成29年度OT協会認知症モデル事業士会活動報告として、京都・兵庫・広島・沖縄、そして佐賀の取り組みについて報告がありました。認知症カフェやスキルアップ研修、認知症生活行為支援指導者養成研修マニュアルの紹介、ニーズ調査の実施、西九州大学における取り組みなど各府県のモデル事業としての活動は参考になるものが多くありました。三重県士会としても認知症OT推進委員会で目標を「三重県認知症OTの地域進出推進！」としており、認知症の人と家族の会との連携や地域へのOT進出のシステム構築などを含め、今後の活動に結び付けていきたいと思えます。

地域における認知症支援「認知症カフェ」

みたき総合病院 工藤元貴

認知症カフェとは、認知症のご本人とご家族が、地域住民、介護・福祉・医療の専門家と身近な場所で集い、交流できる場のことです。新オレンジプランの中では、認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供、認知症の人の介護者への支援、認知症の人やその家族の視点の重視などの取り組みとして、認知症カフェの設置が推進されています。開催の情報は、各市町村の役所や地域包括支援センターで得る事ができます。

県内のいくつかの認知症カフェにはOTが参加し、①家族の相談会での発言、②ピアサポートのつなぎ役、③認知症の

ご本人への回想法、④自宅での作業の提案などを行っています。地域における認知症支援として、認知症カフェでのOTの役割は重要になると思われます。会員の皆さんも、地域の認知症カフェに参加し、認知症のご本人やご家族、地域住民の方々との交流をしてみてください。写真は、三重県認知症OT推進委員の佐野佑樹さんが長太の寄合所「くじら」で開催しているD-カフェです。



参加報告

第52回日本作業療法学会に参加して

藤田医科大学七栗記念病院 伊藤和樹

2018年9月7日(金)～9日(日)に名古屋国際会議場で開催された第52回日本作業療法学会に参加しました。今回の学会テーマは「根拠に基づく作業療法の展開(Enlargement of Evidence-Based Occupational Therapy)」であり、基調講演、シンポジウム等、今後の未来につながるような内容が多く発表されていました。なかでも認知症と自動車運動、MTDLP、地域関連の発表が多く、作業療法の新たな知見を得ることができました。また、ポスター発表では、認知症カフェや認知症初期集中支援事業、就労支援、生活支援コーディネーターなど多くの分野で活躍している内容が掲示されており、疑問点や不明な点など、発表者の先生に気軽に質問・相談することができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。

今回、私も日頃の研究成果を口述発表することができました。発表をすることで、いろいろな先生方の研究・臨床に対する考え方を学ぶことができ、今後の研究に活かせることも多いと感じました。

今回の学会を通じて、根拠に基づく作業療法の実践とその人らしさを追求するようなNBM(Narrative Based Medicine)の両概念を念頭に置き、作業療法を発展させていくためにも日頃の臨床業務や研究を一つ一つ積み重ねていくこと、それを外部へ公表することが大切であると感じました。



第18回東海北陸作業療法学会に参加して

三重県立総合医療センター 富中真悟

2018年11月17～18日に福井県 AOSSA にて第18回東海北陸作業療法学会が開催されました。11月ということもあり三重県と比べ冷たさを若干肌で感じる気候でした。

今回、私はポスター発表で参加しました。どのセッションでも作業療法士の方が熱心に学術研究に取り組んでいることを肌で感じました。多種多様な分野で働いている作業療法士の活躍ぶりに触発されました。

参加して一番印象に残ったことは、一般公開の講演で事故

により片手を失いながらも看護師という仕事に就き、社会復帰のために続けた水泳でパラリンピックに出場。そして今ではバイオリン用の義手を作成し演奏までできるようになった伊藤真波さんの話を聞いたことです。彼女は「誰一人諦めなかったから、今笑顔で毎日前を向いて生活できている」と話されていました。

東海北陸作業療法学会に参加したことで、作業療法の発展のために、これまであきらめずに取り組まれた先駆者の作業療法士の諸先輩方に負けないように日々の仕事に奮起して取り組んでいきたいと強く思いました。

平成30年度みえ福祉用具アイデアコンクール審査会に参加して

副会長 佐藤明俊

2018年10月3日(水)、三重県身体障害者総合福祉センターにて、平成30年度みえ福祉用具アイデアコンクールの審査会がありました。今年度は、全国から応募総数313作品(昨年285作品)あり、5名の審査員が5作品の候補を事前に出しました。審査員には、大学、行政、福祉用具販売会社、自助具工房、三重県作業療法士の各関係団体から構成されており、審査会当日は、各審査員より今後の展望性も見すえて意見交換を行いながら、重複も含め選出された18作品を、先行開発されているもの、類似品のあるものを更に除外しました。その最終選考で残った作品から、最優秀賞、優秀賞、三重県作業療法士会賞、日本福祉用具供給協会三重県ブロック賞、三重テレビ放送賞、伊勢新聞社賞を選びました。三重県作業療法士会賞には、カチューシャ型ヘアバンドを選びました。また受賞者には、2018年11月9日(金)に開催されました「みえ福祉用具フォーラム2018」の会場で行われた表彰式で、田中一彦会長より賞状と景品が付与されました。

その他の、受賞作品は、みえテクノエイドセンターのHP



(<http://www.ztv.ne.jp/mie-tech/H30idea.html#e13>)で確認できます。

皆さまも、臨床で困ったとき、こんな物があれば良いな、こういう工夫をしたら、日常生活が変わるな・・・というアイデアが有りましたら、来年度のアイデアコンクールに応募してみても如何ですか？

(参加報告) リハレンジャー登場



救急・健康フェア 2018 に参加して

鈴鹿中央総合病院 中村優里

2018年9月16日(日)に鈴鹿市主催のイベントで「救急・健康フェア2018」が鈴鹿医療科学大学にて開催されました。その中で当会のブースは「リハビリテーションフェア2018」として、地域の方へのリハビリテーションに関する啓発活動を目的に、リハビリテーション関連職種の紹介やアンケート、リハビリテーションに関する知識の伝達を行いました。

全体のイベント内容としては、医師による健康相談や血圧測定、また女性消防隊員による救急に関する人形劇など、老若男女楽しめる活動を各ブースにて実施していました。リハビリテーション部門では、理学療法ブースでは運動機能測定、言語聴覚療法ブースでは脳トレ体験、作業療法ブースでは吹き矢体験を行いました。

私は作業療法ブースで、受付やパンフレットの配布、リハレンジャーとして吹き矢体験に参加させて頂きました。参加者にはまず、受付にて「作業療法」について簡単なアンケートに答えて頂き、その後実際に吹き矢を体験して頂きました。今年度は来場者203名と多くの方に参加して頂きました。アンケートに回答して頂いた98組の中では「作業療法を知っているか」という設問に対して「知っている」と回答したのは57組、「知らない」と回答したのは41組という結果になりました。また、「作業療法が何をするのか」という設問に対して「知っている」と回答した方が30組、少し知っている」と回答した方が19組、「知らない」と回答した方が49組という結果になりました。今回のアンケートから約半数の方に「作業療法を知っ



ている」と答えて頂きましたが、作業療法という職種の認知度の低さを再確認しました。今回のイベントのような啓発活動を重ね、さらに作業療法を知っていただく機会を設けていくことが重要だと感じました。また、「自信がないわ」と言いながら参加して頂いた方が体験し終わった後に「自分がこんなに出来ると思わなかった」と笑顔で言ってくださり、とても嬉しく感じました。参加者の方が吹き矢体験を通して楽しみながら全身の運動を行うことが出来たと思います。

リハレンジャーとして活動してみて、リハレンジャーは子供たちだけではなくお年寄りの方にも人気があり、意外に感じました。参加者の中には、一緒に写真を撮りたいと言って下さる方もみえ、自分自身もとても楽しく活動することが出来ました。リハレンジャーを通して多くの方に作業療法について知って頂けたと思います。今後も可能であれば是非参加させて頂きたいです。

最後になりましたが、イベントに参加されたスタッフの皆様、運営の皆様、本当にありがとうございました。



第11回 赤堀ふれあいまつりに参加して



鈴鹿厚生病院 村田 光

2018年10月21日に人権プラザ赤堀周辺で行われた、「赤堀ふれあいまつり」にリハレンジャーとして参加しました。リハレンジャーとは、三重県作業療法士会創立20周年を機に作業療法の新しい啓発手段として考案されたものです。多くの方に作業療法を知って頂くために沢山のイベントに参加しています。

私がリハレンジャーをさせて頂くのは今回で2回目でした。2回目ということであまり緊張することはない、イベントに来てくださった皆さんに温かく迎えて頂きました。ステージではリハレンジャー体操を行い、その後はリハレンジャーとの写真撮影や、ご当地ゆるキャラとのコラボ等で地域交流を図らせていただきました。イベントでは、多くの方に声を掛けて頂き、

一緒に写真撮影をしたり、触れあうことで笑顔になってくれる姿をみてこちらも元気を頂きました。また、リハレンジャー体操の振り付けを一緒になってやってくれる方々をみて、とても嬉しかったです。

今回の活動は沢山の皆さんにリハレンジャーを通して作業療法を知っていただける良い機会になったと考えています。今後もこのような機会があれば是非参加したいと思います。また、今後も継続して作業療法士の活動を地域の方々に啓発していきたいと思っています。



[協会・士会主催会議、研修の参加報告 1]

運転と作業療法委員会の活動報告

三重県作業療法士会 運転と作業療法委員会 委員長
宮坂裕之

1. 本田技研工業（株）との自動車運転に関する意見交換会

2018年9月18日（火）に鈴鹿サーキット交通教育センターにて当会の田中会長、委員3名、協力者2名と本田技研工業（株）の安全運転普及本部以下、本田技研の担当者の方々と自動車運転支援について意見交換会を実施しました。まず、本田技研より、活動の紹介があり、他県（四国4県、沖縄県、熊本県）の作業療法士会と連携し、成果が出ていること



や、障がい者が自動車運転をより安全に実施できるよう支援を行っていることの紹介がありました。また、運転能力を適切に把握するために、運転能力評価サポートソフト、病院での検査結果、実車評価を行い、総合的に運転能力を評価する方法を確立させたいとプレゼンがありました。

当会の活動紹介では、委員会活動や県内作業療法士に実施したアンケート結果、自動車運転の支援に関する問題点と課題について報告し、双方の共通認識を明確にしつつ、協力できる部分について協議をすることができました。

作業療法士は自動車運転に関わることを理解していても、具体的な関わり方や支援方法が統一されていない状況です。今後、三重県作業療法士会としては、関係団体と連携しながら、支援体制の確立を目指していきたいと思えます。



写真は改造車の車内の様子です。

2. 中伊豆リハビリテーションセンターへの施設見学

日本作業療法士協会の運転と作業療法特設委員会の支援を受け、当県から委員3名が中伊豆リハセンターでの活動やセンター内の教習コースを利用した実車評価の見学、改造車の試乗など、運転支援のノウハウを学びに行きました。中伊豆リハセンターの作業療法士の生田さん、那須さんが我々を担当して頂き、実際の実車評価の動画を見ながら、作業療法士が見るべきポイントを解説して頂きました。教習所との連携実績が多く、教官も高次脳機能障害に対する理解があり、作業療法士の視点を生かした講習が行えていることも理解できました。委員3名は実際に改造車に試乗し、左手足で

のアクセルとブレーキ操作、手動装置による運転など、シミュレータでは評価できないことを体験できました。

今後、県域での取り組み予定として、1) 運転支援のノウハウを蓄積するために、運転支援の経験を積んでいくこと。2) 三重県内では鈴鹿サーキット交通教育センターが道路交通法上運転が可能な方の講習を受け入れているため、継続利用していく。3) 教習所との連携強化のため、三重県指定自動車教習所協会との意見交換会を継続していく（2018/10/23に第1回を実施）予定です。

【協会・士会主催会議、研修の参加報告 2】

平成30年度 作業療法体験・見学会を実施して

作業療法啓発部 島崎博也

作業療法啓発部主催による高校生作業療法体験・見学会を、2018年7月23日(月)～28(土)の期間で実施いたしました。本年は、県内73施設に受け入れ協力をして頂き、高校生より希望のあった31施設へ41名の高校生に参加して頂きました。

高校生41名の内訳は、1年生10名、2年生8名、3年生23名(男性10名、女性13名)であり、38名の参加高校生にアンケートを実施できたので報告します。

作業療法を知っていた高校生は、38名中35名であり、学校や家族、病院で知ったという意見が多く見られました。見学会に参加した感想は、「作業療法について良く分かり参考になった」、「作業療法士についての興味が前よりも高くなった」、「自分もこの仕事をしたいという気持ちが強くなった」など作業療法士に関してのイメージが高まったといった感想が非常に多く寄せられました。また、「参加して楽しかっ

た」といった率直な感想や、「とてもやりがいのある仕事」、「社会復帰には欠かせない職業」などといった素敵な感想もあり、参加者全員が見学会に参加して「作業療法士に対する興味が深まった」と回答をしていました。これらの結果を得て、作業療法啓発部としては、「本年も実施して非常に良かった!」と思うことができました。皆様、本当にありがとうございました。

本年は、県内約半数にあたる73施設に受け入れの承諾を頂きましたが、受け入れを承諾して頂いたにも関わらず、参加者がいなかった残りの42施設の皆様には大変ご迷惑をおかけしました。しかしながら、多くの受け入れ施設があるということで参加高校生における施設の選択肢が広がることや、高校進路指導の先生方に対し非常に高い啓発効果を認めているのも事実です。県士会の皆様方には、本活動を来年度も継続的に実施していく予定ですので、是非ともご協力をお願い申し上げます。

東海北陸作業療法リーダー養成研修に参加して

亀山回生病院 岡田拓朗

2018年12月1～2日の2日間、大垣徳洲会病院(岐阜県大垣市)にて行なわれた東海北陸リーダー養成研修会に参加しました。愛知・岐阜・三重・静岡・石川・福井・富山から計33人が参加しました(経験年数4年から26年までのOTが参加)。

社員教育の講座等を請け負っている「株式会社インソース」

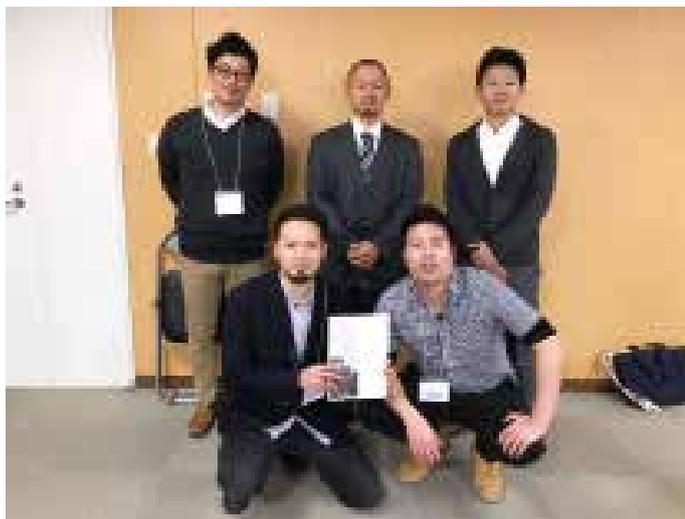
の講師から『次世代リーダー研修』『ワンペーパー資料作成研修』について講義が行われました。

「講義を聞くだけでは5%しか学習効果は無い」との事で、他県士会のOTと5-6人で一組になり、グループワークを中心に研修が行われました。私にとっては先輩OTばかりのグループで緊張しましたが、自分の考えだけではなく、他県のOTの考えや意見を踏まえディスカッションさせて頂く機会があり勉強になりました。

『次世代リーダー研修』では、指示や命令でグループを動かす従来型と新しいリーダー型について学びました。自分自身「他者への命令」が苦手だと感じているので、「メンバーと共に答えを出していく」という新しいリーダー型がある事について学び、良い刺激を受けました。

『ワンペーパー資料作成研修』では、図表を用いて文章をまとめる演習を行ないました。情報をまとめる難しさを痛感しました。

今回の研修で学んだ事を振り返り、実践し、今後の県士会活動に生かしていきたいと思えます。



【協会・士会主催会議、研修の参加報告 3】

学術部主催精神科研修会に参加して

熊野病院 濱中 茜

2018年11月4日(日)三重県立こころの医療センターで開催された研修会「もう一度見つめてみよう 作業療法の魅力・真髄・底力」に参加しました。講師の宇田英幸先生(埼玉県作業療法士会会長)が勤務されている埼玉県立医療センターでは集団プログラムだけでなく、個別での関わりに力を入れておられ、作業の選択方法は既存のプログラムに患者様を当てはめるのではなく、対象となった方一人ひとりの興味や目標に合わせて作業を選択しているとのことでした。

今回の講義では今まで先生が担当された一症例を例に挙げ、「キリンパークを作りたい」という非現実的な発言と捉えてしまうような希望に対し、作業を通して本人の能力を評価し、目標を立てアプローチしたお話を聞かせて頂き、作業療法士として作業を行う事の大切さ、日本作業療法士協会も掲げている『人は作業をすることで元気になれる』を実際の症例を通して感じさせて頂く機会となり、自分の作業療法を振り返る機会、そして、作業療法のすごさを再認識させて頂くことができました。

今回の講習会参加を機に、患者様の発言に対しての捉え方を変え、本当にしたい事や望むことへ挑戦できる機会を提供できるような作業療法を展開していきたいと思えます。



三重県作業療法士会スポーツレクリエーション大会に参加して

鈴鹿厚生病院 村田 光

2018年11月11日(日)に三重県作業療法士会福利部主催のスポーツレクリエーション大会に参加しました。今回は、北勢チームと中勢チームの2チームに分かれて、風船を使ったレクリエーションを行いました。

公式のルールに則って行う風船レクリエーションは、自分が想像していたよりも難しく、慣れるまでとても時間がかかりました。今回は、子どもから大人まで多くの方が参加し、競技中は全員が楽しく真剣になって出来る競技でとても有意義な時間を過ごすことが出来ました。

試合中は、風船の軌道によって得点が入ったりアウトになったりと、ハラハラドキドキの試合を楽しむことが出来ました。また、参加者のお子さんたちの力強いアタックや反射神経抜群のアプローチに圧倒されました。お子さんが競技へ熱心に取り組む姿は、大人たちの心も熱くさせ、大人たちの心を躍らせてくれました。

大人から子どもまで、みんなが協力して楽しめるというのが今回のスポーツレクリエーションの大きな醍醐味であり、作業療法士同士の交流の機会であったと感じました。今後もこのような機会があれば参加したいと思います。



「協会・士会主催会議、研修の参加報告 4」

第3回三重県災害リハビリテーション研修会に参加して

災害対策委員長 奥村 務

三重 JRAT ってご存知ですか？三重県リハビリテーション医連絡会と三重県理学療法士会、三重県言語聴覚士会そして我々三重県作業療法士会が集まって、三重県の災害リハビリテーションにおける活動を行っています。皆様も三重 JRAT の会員ですよ。知っていましたか？

今回は、その各団体が主催した研修会が行われました。今回のシンポジウムの中で、特別講演を行った総合病院国保旭中央病院の作業療法士、今野和成先生は「意識のある人が一人でも増えていくことが大切」と講演されました。今後様々な活動を通して皆様に災害リハビリテーションについて意識してもらい、考えてもらえるよう頑張っていきますので、ご支援よろしくお願い致します。



一般社団法人三重県作業療法士会 南勢ブロック研修会の参加報告

伊勢慶友病院 村田 伶

2018年12月9日に学術部と南勢ブロックの共催による研修会が開催され、参加させて頂きました。講師は、長太の寄合所「くじら」にて、ご活躍されている佐野佑樹先生です。今回は「地域で認知症とともに歩むためには」というテーマで、実体験をもとにした内容で講演が行われました。佐野先生の講演を聴く度に、認知症になってもできることはたくさんある、ということを実感しました。しかし未だに、認知症になってしまったら何もできなくなってしまう、という偏見もあります。そこで、クライアント自身に役割を担ってもらい、自尊心を満たし、今後の生活の質の向上に携われるのが地域で働く作業療法士の強みになってくると思いました。

また、講演の中で、回想法の体験や、「旅のことば」とい

うカードを用いて、自分がクライアントと関わる際に、何を大切にしているかをグループ内で発表し合いました。同じ作業療法士であっても、それぞれ違った意見を持ちつつクライアントと関わっていることを学べました。同期の仲間、先輩方がしっかりとクライアントと向き合っている姿を見て、自分も更に精進していこうと思いました。

今回の講演では、今後、地域で働く作業療法士が地域の方とより良い関係を築き、それを多くの人に周知してもらうことに期待されているように感じました。私は臨床経験が少ないですが、地域で生活されるクライアントをイメージしながら今後の臨床に生かしていきたいと思えます。



県士会からのお知らせ

発達支援作業療法推進委員会からのお知らせ

発達支援作業療法推進委員会 委員長 熊谷ちほり

発達領域での作業療法士による支援が益々必要とされてきている中、近年、療育センターや小児施設以外にも地域の幼稚園、保育園や小中学校などの福祉・教育機関から作業療法士との連携を望む声が増えてきています。また、最近では学童保育からの相談もあり、県士会としてこのような地域からの依頼にも対応していきたいと考えております。つきましては、発達領域に関わる作業療法士が県内にどの程度いるのかなどの状況把握をしたいと考えております。4月頃に各施設にアンケート調査の依頼をさせて頂きたいと思っておりますので、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

[勉強会 / 研修会のお知らせの掲載について]

勉強会、研修会の詳しい内容は、三重県作業療法士会ホームページをご覧ください。

<http://mieot.com/info-cat/study/>

[賛助会員のご紹介]

日本モッキ

〒516-0008 伊勢市船江3丁目17-19
TEL.0596-65-6039

杉山木工

〒990-0401 山形県東村山郡中山町大字長崎字中原996-6
TEL.023-662-5295

[求人情報]

求人情報の詳しい内容は、三重県作業療法士会ホームページをご覧ください。作業療法士会ホームページをご覧ください。 <http://mieot.com/info-cat/job/>

[編集後記]

寒い日が続いておりますが、会員の皆様は、寒さ対策は大丈夫でしょうか？私は広報誌『OT みえ』の130号を発行するにあたり、原稿集めに日々、汗をかいております。本号は、認知症作業療法の活動を特集記事としてまとめてみました。原稿を作成いただいた認知症作業療法推進委員の皆様には感謝申し上げます。また、3月の県学会の一般公開講座において、高齢者の自動車運転について講演が予定されています。われわれ作業療法士は高齢者や認知症の方の生活や活動を支援することが多いため、差し迫ったテーマであると考えています。皆様、学会に参加し悩みを共有してみたいはいかがでしょうか？私も運転と作業療法委員として、講演を聞きたいと思っています。次号は、どの部局をクローズアップしようかな？

(編集：宮坂裕之、部局員：伊藤篤史、進藤直紀、岡田拓朗)

発行所

〒514-1296
三重県津市大鳥町424-1
藤田医科大学七栗記念病院内
一般社団法人三重県作業療法士会 広報部

発行責任者

一般社団法人三重県作業療法士会 田中一彦

事務局

〒512-1111 三重県四日市市山田町5538-1
小山田記念温泉病院 リハビリテーションセンター内
一般社団法人三重県作業療法士会 事務局
TEL: 059-328-1260
FAX: 059-337-9511
e-mail: mieotjim@yahoo.co.jp

会員各位

2019年2月 吉日

一般社団法人三重県作業療法士会
選挙管理委員長 伊藤 篤史

公 示

定款第30条に基づく2019年6月9日の役員任期満了に伴い、選挙の管理・運営の手引きに則り、役員選挙を下記の通り公示いたします。

記

1. 役職名と定数

- ① 理事 3名以上20名以内(代表理事候補を含む)
- ② 監事 1名以上2名以内
- ③ 代表理事候補兼理事 1名

2. 理事、監事及び代表理事候補兼理事の選出について

- ① 理事と監事については正会員による選挙によって直接、選任されます。
- ② 代表理事については、定款第27条により、理事会の決議により理事の中から選任されます。今回の選挙では、正会員が役員候補者に対する意見を表明する機会として代表理事候補者という形で選出します。

3. 立候補の届出について

- ① 立候補は三重県作業療法士会の正会員であれば誰でも可能です。
- ② 役員に立候補または推薦される方は三重県作業療法士会のホームページより必要書類をダウンロードして「選挙の管理・運営に関する手引き」を参照し記入後、選挙管理委員長へ郵送してください。
*必要書類は電子メールでは受付できません。
- ③ 立候補者及び推薦者代表が選挙公報に意見等の掲載を希望する際はその掲載文を400字以内にまとめ、テキスト形式(word形式)で下記メールアドレスへ送信してください。郵送の場合はCD-Rに保存したものを立候補届けに添付してください。
E-mail: mieotsenkan@yahoo.co.jp 件名:「選挙公報掲載文の件」と明記してください。
- ④ 告示及び選挙公報掲載文は三重県作業療法士会ホームページに掲載されます。

以上

- * 立候補及び推薦候補受け付け締め切り: 2019年5月15日(水)必着
- * 選挙の日時: 2019年6月9日(日)
- * 選挙の場所: 三重県総合文化センター内 生涯学習センター視聴覚室
届け出先: 〒515-8566
三重県松阪市川井町字小望102
松阪中央総合病院 リハビリテーションセンター内
一般社団法人 三重県作業療法士会 選挙管理委員長 伊藤篤史 宛
TEL: 0598-21-5252(代) E-mail: mieotsenkan@yahoo.co.jp